

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科 目 名	動作分析学	学 科 名	理学療法学科	講 師 名	小松 晃
時 間 数	30時間			実務経験の有無	理学療法士として医療機関(クリニック)にて実務経験あり
学年・学期配当	1年次	2年次	前期	後期	通期
目的・ねらい	日常生活における基本動作となる、寝返り～起き上がり～起立・着座～歩行動作のメカニズムや評価方法を、講義や実技を通して学んでいく。また臨床実習に向けたレポートの作成練習や、評価する力を高めていくためのグループワークを行い、表現する力も養っていく。				
授業全体の 内容の概要	運動学で学んだ基礎知識をもとに動作分析の意義と重要性について理解を深める 分析結果より問題点を抽出する				
授業修了時の 達成課題 (到達目標)	1、運動学で学んだ基礎知識をもとに動作分析の意義と重要性について理解を深めることが出来る 2、分析結果より問題点を抽出することが出来る				
指 導 計 画	回	形態	内 容		
	1	講義	動作分析学総論		
	2	講義	起立・着座動作の分析の概要		
	3	実習	起立・着座動作の分析方法について		
	4	演習	起立・着座動作の分析：グループワーク		
	5	講義	寝返り動作の分析の概要		
	6	実習	寝返り動作の分析方法について		
	7	演習	寝返り動作の分析：グループワーク		
	8	講義	起き上がり動作の分析の概要		
	9	実習	起き上がり動作の分析方法について		
	10	演習	起き上がり動作の分析：グループワーク		
	11	講義	歩行の観察方法について		
	12	講義	歩行の観察方法について		
	13	実習	歩行の分析方法について		
	14	演習	歩行の分析：グループワーク		
	15	講義	まとめ		
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイント などの提出を必須とする。		
テキスト・参考図書等	動作分析臨床活用講座バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践 石井慎一郎 編著				
評価方法	実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、終講試験90%、出席状況10%をもって判定する。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科 目 名	理学療法評価学総論		学 科 名	理学療法学科	講 師 名	梶田 山護
時 間 数	30時間				実務経験の有無	理学療法士として医療機関（病院）にて実務経験あり
学 年 ・ 学 期 配 当	1年次	2年次		前期	後期	通期
目 的 ・ ね ら い	本講義の目的は、関節可動域測定及び形態測定を習得することにある。					
授 業 全 体 の 内 容 の 概 要	この講義は理学療法評価学実習ⅠおよびⅡと連携した一連の講義の一つである。					
授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (到 達 目 標)	本講義の到達目標は、臨床場面で通用する関節可動域測定及び形態測定を修得する点にある。					
指 導 計 画	回	形 態	内 容			
	1	演 習	治療が行われる中での「評価」の位置づけと流れ			
	2	演 習	障害像の理解：障害モデル			
	3	演 習	全体像の把握・医療面接			
	4	演 習	バイタルサイン			
	5	演 習	関節可動域とその障害、そして測定の方法			
	6	演 習	形態測定の方法			
	7	演 習	形態測定の方法と解釈			
	8	演 習	関節可動域とその障害、そして測定の方法			
	9	演 習	関節可動域測定の方法①			
	10	演 習	関節可動域測定の方法②			
	11	演 習	関節可動域測定の方法③			
	12	演 習	関節可動域測定の方法④			
	13	演 習	筋力とその障害、そして測定の方法			
	14	演 習	徒手筋力検査の基本的な考え方			
	15	演 習	徒手筋力検査①：頸筋のテスト①			
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テ キ ス ト ・ 参 考 図 書 等	理学療法評価学（第6補訂版）金原出版 新・徒手筋力検査法 第10版 協同医書					
評 価 方 法	実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、期末試験、出席状況、受講態度をもって判定する。期末テストは、筆記および実技テストとして実施する。判定に際しては、期末テスト、そして出席状況および受講態度は合算し1割の重み付けを行う。					

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科 目 名	理学療法管理学	学 科 名	理学療法学科	講 師 名	日和 将貴
時 間 数	30時間			実務経験の有無	理学療法士として医療機関（病院）にて実務経験あり
学 年 ・ 学 期 配 当	○1年次	2年次		○前期	後期 通期
目 的 ・ ね ら い	目的は、医療を取り巻く関連法規を理解することにある。 この目的を達成することによって、医療関連施設におけるリハビリテーションの位置づけを理解することができる。				
授 業 全 体 の 内 容 の 概 要	リハビリテーション概論や理学療法概論等でも学ぶ「業務管理」について、より詳しく話をしていく。臨床実習の前準備としてはもちろんのこと、将来は管理職に就くであろうみなさんのキャリア教育の一環としても話をしたいと考えている。				
授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (到 達 目 標)	到達目標は、医療を取り巻く関連法規を理解し、医療関連施設の組織を把握する事。				
指 導 計 画	回	形態	内 容		
	1	講義	リハビリテーション科における管理とは		
	2	講義	組織化とは		
	3	講義	業務管理（1）		
	4	講義	業務管理（2）		
	5	講義	人事労務管理		
	6	講義	教育管理（1）		
	7	講義	教育管理（2）		
	8	講義	管理者のあるべき姿		
	9	講義	リスクマネジメント（1）		
	10	講義	リスクマネジメント（2）		
	11	講義	経営管理		
	12	講義	質の高いリハビリテーションを提供するために（1）		
	13	講義	質の高いリハビリテーションを提供するために（2）		
	14	演習	グループワーク		
	15	講義	まとめ		
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有○・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。		
テ キ ス ト ・ 参 考 図 書 等	・『よくわかる関係法規』学研、2021年。 また必要に応じて資料を配布します。				
評 価 方 法	実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価については期末試験90%、出席・平常点10%で判定する。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	理学療法評価学実習Ⅰ			学科名	理学療法学科	講師名	梶田 山護
時間数	45時間					実務経験の有無	理学療法士として医療機関(病院)にて実務経験あり
学年・学期配当	1年次	2年次			前期	後期	通期
目的・ねらい	本講義の目的は、関節可動域測定及び徒手筋力検査法を習得することにある。						
授業全体の内容の概要	この講義は、理学療法評価学総論、評価学実習Ⅱと連携した一連の講義の一つである。ここでは、関節可動域測定及び徒手筋力検査法を中心に進める。						
授業修了時の達成課題(到達目標)	本講義の到達目標は、臨床場面で通用する関節可動域測定及び徒手筋力検査法を修得することにある。						
指導計画	回	形態	内 容				
	1	演習	痛みの種類とその病因について				
	2	演習	痛みが身体に与える影響				
	3	演習	痛みの評価と対処				
	4	演習	感覚検査				
	5	演習	反射検査				
	6	演習	意識障害・精神状態				
	7	演習	日常生活動作(ADL)・生活の質(QOL)について				
	8	演習	ADL・QOLの評価				
	9	演習	徒手筋力検査： 振り返り				
	10	演習	徒手筋力検査： 頸筋のテスト				
	11	演習	徒手筋力検査： 体幹筋のテスト				
	12	演習	徒手筋力検査： 肩甲帯筋、肩関節の筋力テスト				
	13	演習	徒手筋力検査： 肩関節の筋力テスト				
	14	演習	徒手筋力検査： 肩関節、肘関節の筋力テスト①				
	15	演習	徒手筋力検査： 手関節、手指の筋力テスト①				
	16	演習	徒手筋力検査： 手指の筋力テスト①				
	17	演習	徒手筋力検査： 股関節の筋力テスト①				
	18	演習	徒手筋力検査： 股関節の筋力テスト②				
	19	演習	徒手筋力検査： 膝関節、足関節の筋力テスト①				
	20	演習	徒手筋力検査： 膝関節と足関節の筋力テスト②				
	21	演習	徒手筋力検査： 足と足趾の筋力テスト①				
	22	演習	徒手筋力検査： 足と足趾の筋力テスト②				
	23	演習	まとめ				
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 (有)・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。				
テキスト・参考図書等	『新・徒手筋力検査法 第9版』協同医書 『レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 理学療法評価学Ⅰ』中山書店						
評価方法	実施された授業コマ数の1/5以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、毎講義開始時の小テスト、期末試験、出席状況、受講態度をもって判定する。期末テストは、筆記および実技テストとして実施する。判定に際しては、小テストは1割、期末テストは8割、そして出席状況および受講態度は合算し1割の重み付けを行う。						

※形態は、講義・演習・実習(施設/企業等)

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	疾患別理学療法学Ⅰ (運動器-上肢)		学科名	理学療法学科	講師名	小松 晃
時間数	60時間				実務経験の有無	理学療法士として医療機関(クリニック)にて実務経験あり
学年・学期配当	1年次	2年次			前期	後期 通期
目的・ねらい	運動器疾患に対する知識・評価・治療までの一通りの流れを理解する					
授業全体の内容の概要	疾患別に評価・治療を実践しながら組み立てていく					
授業修了時の達成課題(到達目標)	①筋骨格系の構造と機能を理解することができる ②筋骨格系に起因する運動障害と機能障害の関係が理解することができる ③身体各部位における筋骨格障害を理解し評価から理学療法プログラムまで立案することができる ④筋骨格系障害に対する理学療法を実施することができる					
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義	運動器疾患に対する理学療法の考え方 評価治療の原則①			
	2	講義	運動器疾患に対する理学療法の考え方 評価治療の原則②			
	3	講義	運動器疾患に対する理学療法の考え方 機能障害の評価と治療			
	4	講義	運動器疾患に対する理学療法の考え方 マッサージバランス			
	5	講義	肩関節疾患(肩甲上腕関節の障害、第二肩関節障害、肩鎖関節の障害、結節間溝の障害)			
	6	講義	肩関節疾患(肩甲上腕関節の障害、第二肩関節障害、肩鎖関節の障害、結節間溝の障害)			
	7	講義	腱板断裂①			
	8	講義	腱板断裂②			
	9	実習	肩関節疾患・腱板断裂 評価・治療			
	10	実習	肩関節疾患・腱板断裂 評価・治療			
	11	講義	上肢の骨折(上腕骨近位部骨折、鎖骨骨折、上腕骨骨幹部骨折)			
	12	講義	上肢の骨折(上腕骨遠位部骨折、前腕骨骨幹部骨折、前腕骨遠位部骨折)			
	13	実習	上肢の骨折(上腕骨近位部骨折、鎖骨骨折、上腕骨骨幹部骨折) 評価・治療			
	14	実習	上肢の骨折(上腕骨遠位部骨折、前腕骨骨幹部骨折、前腕骨遠位部骨折) 評価・治療			
	15	講義	まとめ			
	16	講義	頸椎疾患(頸椎椎間板ヘルニア)			
	17	講義	頸椎疾患(頸椎症性神経根症、頸椎症性脊髄症)			
	18	講義	頸椎疾患(頸椎捻挫)			
	19	実習	頸椎疾患 評価・治療			
	20	実習	頸椎疾患 評価・治療			
	21	講義	肘関節の疾患(内側側副靭帯損傷、離断性骨軟骨炎、外側上顆炎)			
	22	講義	肘関節疾患(内側側副靭帯損傷、離断性骨軟骨炎、外側上顆炎)			
	23	実習	肘関節疾患 評価・治療			
	24	講義	関節リウマチ①			
	25	講義	関節リウマチ②			
	26	実習	関節リウマチ 評価・治療			
	27	実習	関節リウマチ 評価・治療			
	28	講義	末梢神経障害①			
	29	講義	末梢神経障害②			
30	実習	末梢神経障害 評価・治療				
			原則、筆記試験の実施 筆記試験(有)・無しの場合、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等	標準理学療法学 骨関節理学療法学 第2版 医学書院 編集 福井 勉 小柳磨毅					
評価方法	実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失う。成績評価は、中間試験、終講試験をもって判定する。					

※形態は、講義・演習・実習(施設/企業等)

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科 目 名	疾患別理学療法学Ⅵ (呼吸障害)	学 科 名	理学療法学科	講 師 名	井崎 義己
時 間 数	30時間			実務経験の有無	理学療法士として医療機関(急性期～回復期の病院)にて実務経験あり
学 年 ・ 学 期 配 当	1年次	2年次	前期	後期	通期
目 的 ・ ね ら い	呼吸疾患および腎臓・泌尿科系の病態および評価を学び、理学療法にどのように繋げていくかを学ぶ。実際に評価および手技の実習を行い、理解を深めてもらう。				
授 業 全 体 の 内 容 の 概 要	呼吸疾患および腎臓・泌尿科系の病態、評価および治療技術を学ぶ。症例を通して学んできた病態や評価を理学療法にどのように繋げていかなど問題解決能力を養う。呼吸療法に必要な評価及び治療の実技を実習にて学び治療に繋げていく。				
授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (到 達 目 標)	呼吸疾患および腎臓・泌尿科系の病態を理解する。呼吸疾患および腎臓・泌尿科系の評価および治療を学び、実技を通して理解を深めることができる。呼吸疾患および腎臓・泌尿科系の症例を通して患者様の評価のプロセスが理解できる。				
指 導 計 画	回	形態	内 容		
	1	講義	呼吸器疾患の解剖生理		
	2	講義	呼吸器疾患の病態		
	3	講義	呼吸器疾患の検査		
	4	講義	酸素療法・薬物療法		
	5	講義	機械的人工呼吸		
	6	講義・実技	呼吸不全に対する評価		
	7	講義・実技	排痰法・聴診		
	8	講義	呼吸不全に対するADL		
	9	講義・実技	呼吸不全に対する運動療法		
	10	講義・演習	慢性閉塞性肺疾患の理学療法		
	11	講義・演習	慢性拘束性肺疾患の理学療法		
	12	講義	腎不全の病態		
	13	講義	腎不全の病態・検査・治療		
	14	講義	腎不全の評価		
	15	講義	腎不全の理学療法		
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 (有) ・ 無し しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。		
テ キ ス ト ・ 参 考 図 書 等	内部障害理学療法学テキスト 改訂第4版				
評 価 方 法	成績評価は、筆記試験(80%)、出席状況と受講態度(10%)、レポート課題の提出(10%)をもって判定する。				

※形態は、講義・演習・実習(施設/企業等)